

## これからの授業改善を考える上で

### ●今の授業のやり方を全く新しいやり方に変えるのか？

<中教審答申>

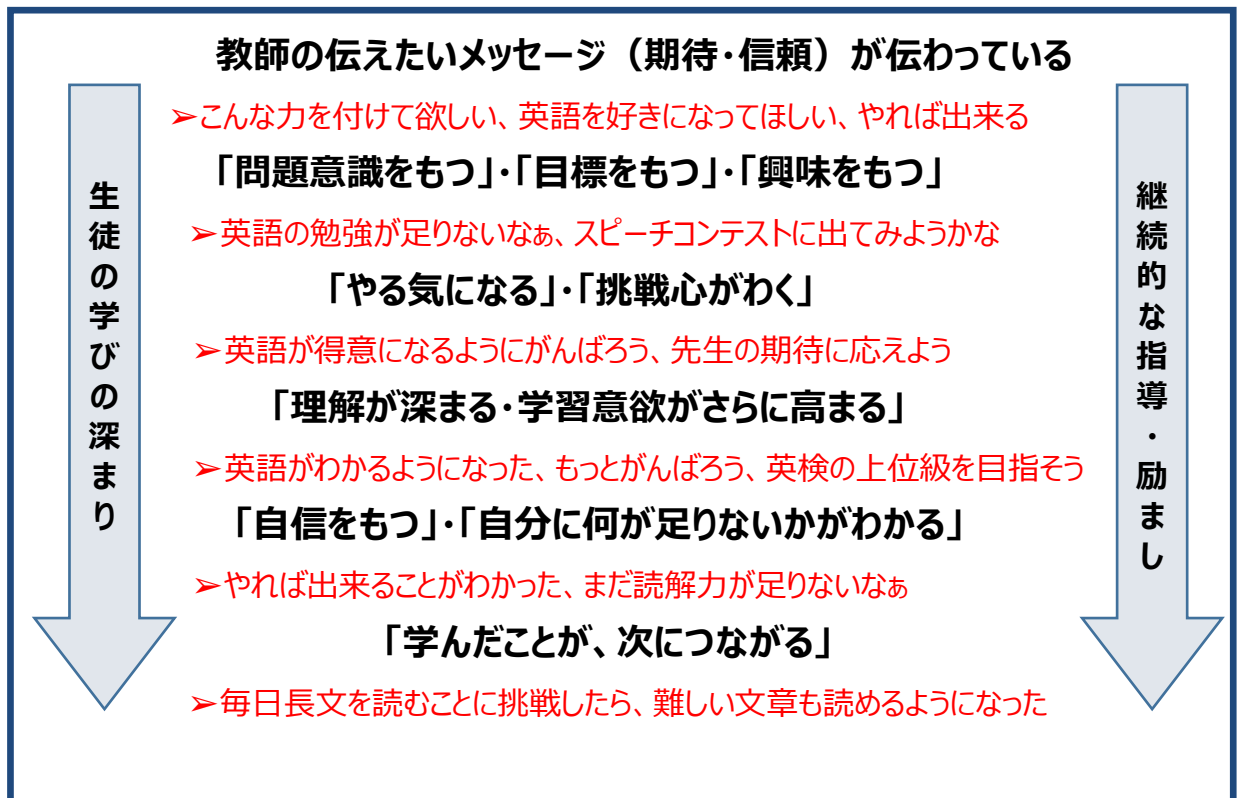
今までの授業時間とは別に新たに時間を確保しなければならないというものではなく、現在既に行われているこれらの活動（言語活動等）を、「主体的・対話的で深い学び」の視点で改善し、単元や題材のまとまりの中で指導内容を関連付けつつ、質を高めていく工夫が求められている。

### ●生徒の主体的な学びを促す指導

「教えて考えさせる授業」

- 基礎基本は教え、思考・表現を通して深い習得を促す  
(東京大学教育学研究所 市川伸一教授)

### ●「何ができるようになるか」を具体的にイメージ



## ●「わかる授業」→ 生徒の学習意欲を高める授業

### 【不可欠な要素】

- ◎ 授業規律（ルール）
- ◎ 授業内の各活動の目的、意味
- ◎ 学習目標・評価方法の提示・共有
- ◎ 英語で行う際の生徒の理解を促す工夫（生徒の実態を踏まえて）
- ◎ 考える時間の確保（集団と個の学習のバランス）
- ◎ 適切な支援（できるようになるまで継続的に）

## ●「活動あって学びなし」にしない

- ◎ 学習者が「何を学習しているのか」、「何を学習したのか」を理解できる授業である。
- ◎ 教師の**授業の創意工夫**によって、生徒がより、**理解を深め、自分で考え、意見を述べる**ことができるようになるなど、**自ら思考・判断・表現**を行う確かな学力を育む授業である。

## ● 授業を見る視点

### 授業にあるか（教員間で授業を見合う際の視点例）

- 興味・関心をもたせる工夫
- 明確な指示、授業の見通し
- 「何ができるようになるか」という目標の共有
- 活動のバリエーション、めりはり、バランス
- 達成感につながる振り返り（自己評価・相互評価）
- 学習内容をスパイラルに学ばせる工夫
- 生徒の理解を促す適切な支援
- 生徒のやる気を引き出す声掛け、フィードバック など